

事務事業評価表 平成23年度

政策 市民協働によるまちづくり
 施策 自助・互助・公助のまちづくり
 基本事業 コミュニティ活動の支援と連携

事業名 **市民憲章推進協議会補助金**

[0521]

| | | | | | |
|----|-------|--------|--------|----------|------|
| 部名 | 生活環境部 | 事業開始年度 | 昭和44年度 | 実施計画事業認定 | 非対象 |
| 課名 | 市民生活課 | 事業終了年度 | - 年度 | 会計区分 | 一般会計 |

| 事務事業の目的と成果 | |
|------------|---|
| 対象 | <p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>江別市民憲章推進協議会</p> |
| 意図 | <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>市民が主体性と連帯感をもって、江別市民憲章を本旨とする明るく住みよいまちづくりを実現するための環境づくりと緑化運動を重点とした市民運動の展開を推進する。</p> |
| 手段 | <p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>江別市民憲章を推進する同団体に対して運営費の一部を補助する。</p> |

| 事業量・コスト指標の推移 | | | | | | |
|-----------------------|------------|----|--------|--------|--------|--------|
| 区分 | | 単位 | 20年度実績 | 21年度実績 | 22年度実績 | 23年度当初 |
| 対象指標1 | 構成団体数 | 団体 | 60 | 60 | 60 | 60 |
| 対象指標2 | | | | | | |
| 活動指標1 | 補助金額 | 千円 | 47 | 47 | 47 | 47 |
| 活動指標2 | | | | | | |
| 成果指標1 | 市民運動の取り組み数 | 件 | 6 | 7 | 6 | 7 |
| 成果指標2 | | | | | | |
| 単位コスト指標 | | | | | | |
| 事業費計 (A) | | 千円 | 47 | 47 | 47 | 47 |
| 正職員人件費 (B) | | 千円 | 418 | 415 | 403 | 815 |
| | | | | | | |
| 総事業費 (A) + (B) | | 千円 | 465 | 462 | 450 | 862 |

| 費用内訳 | |
|------|------------------|
| 22年度 | 負担金 補助及び交付金 47千円 |

事業を取り巻く環境変化

| | | | |
|------------|--|---------------------|--|
| 事業開始 背景 | | 事業を 取り巻く 環境変化 | |
|------------|--|---------------------|--|

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
根拠は？

江別市民憲章の普及・浸透を担い、市民が主体性と連帯感をもって、明るく住みよいまちづくりを実現するための環境づくりと緑化運動を重点とした市民運動を展開しており、行政側の支援のあり方として妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

江別市民憲章の普及・浸透を通じて、市民が主体性と連帯感をもって市民運動を展開しており、貢献度が大きい。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
根拠は？

継続的な市民運動が展開され、構成団体数も維持されており、成果は上がっている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

継続的な市民運動が維持・展開されているが、なお全市的に協議会の目的を浸透、拡大させる余地はある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
根拠は？

市民憲章推進協議会の事業である「花のある街並みづくり事業」に係る事業費の一部については、市民・事業所等からの募金により事業を実施しているという自助・互助の現状があり、補助金の削減は適切な公助とともに市民協働まちづくりの後退を招く。